

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月11日
【四半期会計期間】	第94期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	常磐興産株式会社
【英訳名】	Joban Kosan Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 斎藤 一彦
【本店の所在の場所】	福島県いわき市常磐藤原町蕨平50番地
【電話番号】	0246（43）0569(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 秋田 龍生
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区東日本橋三丁目7番19号
【電話番号】	03（3663）3411(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 秋田 龍生
【縦覧に供する場所】	常磐興産株式会社 東京本社 （東京都中央区東日本橋三丁目7番19号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注）上記の東京本社は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第1四半期連結 累計期間	第94期 第1四半期連結 累計期間	第93期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(百万円)	8,672	3,354	33,240
経常利益又は経常損失() (百万円)	189	380	368
四半期(当期)純損失()(百万 円)	381	5,945	367
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	593	5,876	663
純資産額(百万円)	15,180	9,242	15,119
総資産額(百万円)	52,587	53,536	52,015
1株当たり四半期(当期)純損失金額 ()(円)	4.91	74.89	5.06
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	28.9	17.2	29.0

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
 おりません。

2. 売上高には、消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第93期第1四半期連結累計期間、第94期
 第1四半期連結累計期間及び第93期は、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失のため
 記載しておりません。

4. 第93期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」
 (企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要
 な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

当第1四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更があった事項は次のとおりです。

なお、文中の将来に関する事項は、四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

自然災害について

- 1．スパリゾートハワイアンズの再開の時期につきましては、日帰り施設スプリングパーク・スパガーデンパレオ・江戸情話与市及び宿泊施設ウイルポート・ホテルハワイアンズ東館を平成23年10月1日に、ウォーターパークを平成24年1月にそれぞれ再開するとともに、平成24年1月に新ホテル「モノリス・タワー」のオープンを予定しております。
- 2．平成23年4月11日に発生したいわき市を震源とする地震による損害額につきましては、固定資産除却損・原状回復費用・営業休止期間中の固定費等54億66百万円を計上いたしました。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結累計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、設備投資及び個人消費において下げ止まりの傾向にある等持ち直しの動きがみられますものの、東日本大震災の影響により企業収益は鈍化し、雇用・所得環境は依然厳しく、景気は不透明な状況にて推移いたしました。

このような経済環境のもと、主力の観光事業につきましては、大震災ととりわけ4月11日発生のいわき市を震源とする地震の影響により施設は休業を余儀なくされておりますが、クレストヒルズゴルフ倶楽部については4月25日に営業を再開しました。卸売業・運輸業につきましては大震災の影響を受け減収減益となりましたものの、製造関連事業につきましては、堅調な海外需要を受け増収増益となりました。

なお、福島県からの要請を受け避難された方々に対し、5月23日よりホテルハワイアンズの2棟を提供させていただいております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は33億54億円（前年同期比53億17百万円、61.3%減）となり、営業損失は2億72百万円（前年同期は営業損失1億3百万円）となり、経常損失は3億80百万円（前年同期は経常損失1億89百万円）、いわき市を震源とする地震に係る災害による損失54億66百万円を計上したため四半期純損失は59億45百万円（前年同期は四半期純損失3億81百万円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(観光事業)

スパリゾートハワイアンズにつきましては、日帰り部門及び宿泊部門ともに、3月11日の地震に加え4月11日発生のいわき市を震源とする地震により施設に相当の被害が発生し、現在休館中であります。

クレストヒルズゴルフ倶楽部につきましては、大震災の影響は比較的軽微で4月25日に営業を再開し、地元客が大きく増加したものの主力である宿泊ゴルフパックが再開できず利用者数は減少いたしました。ホテルクレスト札幌につきましては、大震災の影響により外国客を中心に道外からの利用者数が落ち込み、宿泊人員は減少いたしました。なお山海館につきましては、津波の影響により休館中であり再開の時期は未定であります。

この結果、利用人員はクレストヒルズゴルフ倶楽部が5千人（前年同期比7千人、56.3%減）、ホテルクレスト札幌が11千人（前年同期比6百人、5.5%減）となりました。

また、売上高は1億16百万円（前年同期比21億79百万円、94.9%減）、営業損失は1億76百万円（前年同期は営業損失30百万円）となりました。

(卸売業)

石炭・石油両部門ともに大震災の影響を受け、石炭部門につきましては、主要納入先の操業停止等により販売数量は減少し減収となり、石油部門につきましては、販売数量が減少したものの石油価格の上昇により増収となりました。

この結果、当部門の売上高は、23億42百万円（前年同期比30億83百万円、56.8%減）、営業利益は21百万円（前年同期比29百万円減、57.8%減）となりました。

(製造関連事業)

アジア等海外需要の増加等を背景に、建設機械、トラック、産業機械及び船舶用モーター等の主力取引先からの受注環境が好調に推移し、増収増益となりました。

この結果、当部門の売上高は5億13百万円（前年同期比47百万円、10.1%増）、営業利益は55百万円（前年同期比14百万円、35.2%増）となりました。

(運輸業)

大震災の影響により、主に電力会社向け石炭輸送をはじめ輸送量が大幅に減少し、減収となりました。

この結果、当部門の売上高は3億82百万円（前年同期比1億2百万円、21.2%減）、営業損失31百万円（前年同期は営業利益10百万円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題についての重要な変更は次のとおりです。

1. スパリゾートハワイアンズの再開の時期につきましては、日帰り施設スプリングパーク・スパガーデンパレオ・江戸情話与市及び宿泊施設ウイルポート・ホテルハワイアンズ東館を平成23年10月1日に、ウォーターパークを平成24年1月にそれぞれ再開するとともに、新ホテル「モノリス・タワー」につきましては平成24年1月のオープンを予定しております。
2. 平成23年4月11日に発生したいわき市を震源とする地震による損害額につきましては、固定資産除却損・原状回復費用・営業休止期間中の固定費等54億66百万円を計上しました。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

平成23年3月11日発生の東日本大震災により観光事業において施設スパリゾートハワイアンズが被害を受け休業を余儀なくされたことから、3月末日に臨時従業員の契約を更新しないこととしたため、当第1四半期連結累計期間の従業員数平均人員は大幅に減少しております。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、製造関連事業の受注が著しく増加し、観光事業及び卸売業の仕入が著しく減少いたしました。

製造関連事業の受注増加の要因は、アジア等海外需要の増加等を背景に、建設機械、トラック、産業機械及び船舶用モーター等の主力取引先からの受注環境が好調に推移したためであります。

観光事業の仕入減少の要因は、スパリゾートハワイアンズが営業休止中のためであります。

卸売業の仕入減少の要因は、大震災の影響による主要納入先の操業停止等があり、販売数量が減少したためであります。

(6) 主要な設備

平成23年4月11日に発生したいわき市を震源とする地震により、スパリゾートハワイアンズにおいて、施設に相当の被害が生じたため、現在復旧工事に着手しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	156,500,000
第1回A種優先株式	3,500,000
計	160,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	79,598,912	同左	東京証券取引所 市場第一部	(注)1.
第1回A種優先株式 (当該優先株式は行使価額修正条項付新株予約権付社債券等であり ます。)	3,500,000	同左	非上場	(注)2~4
計	83,098,912	同左	-	-

(注)1. 権利内容に何らの限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。

2. 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の特質は以下のとおりであります。

(1) 普通株式の株価の下落により取得価額が下方に修正された場合、取得請求権の行使により交付される普通株式数が増加します。

(2) 取得価額の修正の基準及び頻度

転換請求日に先立つ45日取引日目に始まる30取引日の東京証券取引所第一部における当社普通株式の毎日の終値の平均値の92%

(3) 取得価額の下限及び取得請求権の行使により交付されることとなる普通株式の株式数の上限

取得価額の上限：86円

取得請求権の行使により交付されることとなる普通株式の株式数の上限

8,139,534株(平成23年8月11日現在の普通株式の発行済株式総数の10.23%)

(4) 当社の決定による本優先株式の全部の取得を可能とする旨の条項の有無：有

3. 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に関する事項は以下のとおりであります。

(1) 権利行使に関する事項についての所有者との間の取決めの内容

所有者との間で金銭を対価とする取得請求権については平成25年9月26日までは行うことはできないこと、及び普通株式を対価とする取得請求については平成27年9月26日までは行うことはできないことをそれぞれ合意しております。また、取得請求権を行使しようとする日を含む暦日において当該行使により取得することとなる普通株式の数が本優先株式の発行の払込時点における当社上場株式の数の10%を超える場合には、当該10%を超える部分に係る取得請求権の行使を行うことができないことを合意しております。

(2) 当社の株券の売買に関する事項についての所有者との間の取決めの内容

譲渡による本優先株式の取得については、当社の取締役会決議の承認を要する。

4. 第1回A種優先株式の内容は、次のとおりであります。

なお、単元株式数は1,000株であり、種類株主総会の決議を要しない旨の定款の定めはありません。

1. 募集株式の種類

常磐興産株式会社第1回A種優先株式

2. 募集株式の数

3,500,000株

3. 払込金額

1株につき 200円

4. 払込金額の総額

700,000,000円

5. 増加する資本金

350,000,000円(1株につき100円)

6. 増加する資本準備金

350,000,000円(1株につき100円)

7. 払込期日

平成20年9月26日

8. 割当先および株式数

DBJコーポレート投資事業組合(現株主 株式会社日本政策投資銀行)に全株式を割り当てる。

9. 剰余金の配当

(1) 期末配当の基準日

当社は、各事業年度末日の最終の株主名簿に記載又は記録された第1回A種優先株式を有する株主(以下「第1回A種優先株主」という。)又は第1回A種優先株式の登録株式質権者(以下「第1回A種優先登録株式質権者」という。)に対して、金銭による剰余金の配当(期末配当)をすることができる。

(2) 中間配当の基準日

当社は、取締役会の決議により、毎年9月末日の最終の株主名簿に記載又は記録された第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して、会社法第454条第5項に定める金銭による剰余金の配当(中間配当)をすることができる。

(3) 期末配当及び中間配当以外の期中における優先配当の基準日

当社は、期末配当及び中間配当のほか、基準日を定めて当該基準日の最終の株主名簿に記載又は記録された第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対し金銭による剰余金の配当をすることができる。

(4) 優先配当金

当社は、ある事業年度中に属する日を基準日として第1回A種優先株式の剰余金の配当を行うときは、当該基準日の最終の株主名簿に記載又は記録された第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して、基準日の最終の株主名簿に記載又は記録された普通株式を有する株主(以下「普通株主」という。)又は普通株式の登録株式質権者(以下「普通登録株式質権者」という。)に先立ち、第1回A種優先株式1株につき、下記9.(5)に定める額の配当金(以下「優先配当金」という。)を金銭にて支払う。ただし、当該剰余金の配当の基準日の属する事業年度中に、当該剰余金の配当の基準日以前の日を基準日として第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対し剰余金を配当したときは、その額を控除した金額とする。また、当該剰余金の配当の基準日から当該剰余金の配当が行われる日までの間に、当社が第1回A種優先株式を取得した場合、当該第1回A種優先株式につき当該基準日にかかる剰余金の配当を行うことを要しない。

(5) 優先配当金の額

優先配当金の額は、第1回A種優先株式1株につき、以下の算式に基づき計算される額とする。ただし、除算は最後に行い、円位未満小数第3位まで計算し、その小数第3位を四捨五入する。

ア 剰余金の配当の基準日が払込期日(同日を含む。)以降平成25年9月30日(同日を含む。)までの期間に属する場合

第1回A種優先株式1株当たりの優先配当金の額は、第1回A種優先株式の1株当たりの払込金額に年率5%を乗じて算出した金額について、当該剰余金の配当の基準日の属する事業年度の初日(ただし、当該剰余金の配当の基準日が平成21年3月末日に終了する事業年度に属する場合は、払込期日)(同日を含む。)から当該剰余金の配当の基準日(同日を含む。)までの期間の実日数につき、1年を365日として日割計算により算出される金額とする。

イ 剰余金の配当の基準日が平成25年10月1日(同日を含む。)以降平成26年3月末日(同日を含む。)までの期間に属する場合

第1回A種優先株式1株当たりの優先配当金の額は、第1回A種優先株式の1株当たりの払込金額に年率5%を乗じて算出した金額(ただし、平成25年4月1日(同日を含む。)から平成25年9月30日(同日を含む。)までの期間の実日数につき、1年を365日として日割計算により算出される金額とする。)に、第1回A種優先株式の1株当たりの払込金額に年率8%を乗じて算出した金額(ただし、平成25年10月1日(同日を含む。)から当該剰余金の配当の基準日(同日を含む。)までの期間の実日数につき、1年を365日として日割計算により算出される金額とする。)を加えた金額とする。

ウ 剰余金の配当の基準日が平成26年4月1日(同日を含む。)以降の期間に属する場合

第1回A種優先株式1株当たりの優先配当金の額は、第1回A種優先株式の1株当たりの払込金額に年率8%を乗じて算出した金額について、当該剰余金の配当の基準日の属する事業年度の初日(同日を含む。)から当該剰余金の配当の基準日(同日を含む。)までの期間の実日数につき、1年を365日として日割計算により算出される金額とする。

(6) 累積条項

ある事業年度に属する日を基準日として第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して行われた1株当たりの剰余金の配当の総額が、当該事業年度の末日を基準日とする優先配当金の額に達しないときは、その不足額は翌事業年度の初日(同日を含む。)以降、年率5%(ただし、平成25年10月1日以降は年率8%)の利率で1年毎の複利計算により累積する。なお当該計算は、1年を365日とした日割計算により行うものとし、除算は最後に行い、

円位未満小数第3位まで計算し、その小数第3位を四捨五入する。累積した不足額（以下「累積未払優先配当金」という。）については、当該翌事業年度以降、優先配当金並びに普通株主及び普通登録株式質権者に対する剰余金の配当に先立ち、第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して配当する。

(7) 非参加条項

当社は、第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して、優先配当金を超えて剰余金の配当を行わない。

10. 剰余財産の分配

(1) 剰余財産の分配

当社は、剰余財産を分配するときは、第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して、普通株主又は普通登録株式質権者に先立って、第1回A種優先株式1株当たり、下記10.(2)に定める金額を支払う。

(2) 剰余財産分配額

第1回A種優先株式1株当たりの剰余財産分配額は、以下の算式に基づいて算定されるものとする。

(算式)

1株当たりの剰余財産分配額 = 200円 + 累積未払優先配当金相当額 + 日割未払優先配当金額

上記算式における「日割未払優先配当金額」は、剰余財産分配がなされる日（以下「剰余財産分配日」という。）の属する事業年度において、剰余財産分配日を基準日として優先配当がなされたと仮定した場合に、9.(5)に従い計算される優先配当金額相当額とする。

(3) 非参加条項

第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対しては、上記のほか剰余財産の分配を行わない。

11. 譲渡制限

譲渡による第1回A種優先株式の取得については、当社の取締役会の承認を要する。

12. 議決権

第1回A種優先株主は、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会において、議決権を有しない。

当社の第1回A種優先株式については、普通株式に優先する条項を付する内容の株式としている関係から、株主総会における議決権を有しないこととしている。

13. 現金対価の取得請求権（償還請求権）

(1) 償還請求権の内容

第1回A種優先株主は、平成20年9月26日以降いつでも、当社に対して現金を対価として第1回A種優先株式を取得することを請求（以下「償還請求」という。）することができる。この場合、当社は、第1回A種優先株式を取得すると引換えに、当該償還請求の日（以下「償還請求日」という。）における分配可能額を限度として、法令上可能な範囲で、当該効力が生じる日に、当該第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して、下記13.(2)に定める金額の金銭を交付する。なお、償還請求日における分配可能額を超えて償還請求が行われた場合、取得すべき第1回A種優先株式は、抽選又は償還請求が行われた第1回A種優先株式の数に応じた比例按分その他の方法により当社の取締役会において決定する。

(2) 償還価額

第1回A種優先株式1株当たりの償還価額は、以下の算式に基づいて算定されるものとする。

(算式)

1株当たりの償還価額 = 200円 + 累積未払優先配当金相当額 + 日割未払優先配当金額

上記算式における「日割未払優先配当金額」は、償還請求日の属する事業年度において、償還請求日を基準日として優先配当がなされたと仮定した場合に、9.(5)に従い計算される優先配当金額相当額とする。

14. 現金対価の取得条項（強制償還）

(1) 強制償還の内容

当社は、平成20年9月26日以降いつでも、当社の取締役会が別に定める日が到来したときは、当該日の到来をもって、第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者の意思に拘わらず、当社が第1回A種優先株式の全部又は一部を取得すると引換えに、当該日における分配可能額を限度として、第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者に対して、下記14.(2)に定める金額の金銭を交付することができる（この規定による第1回A種優先株式の取得を「強制償還」といい、強制償還の行われる日を、以下「強制償還日」という。）。なお、一部取得を行うにあたり、取得する第1回A種優先株式は、抽選、比例按分その他の方法により当社の取締役会において決定する。

(2) 強制償還価額

第1回A種優先株式1株当たりの強制償還価額は、以下の算式に基づいて算定されるものとする。

(算式)

1株当たりの強制償還価額 = 200円 + 累積未払優先配当金相当額 + 日割未払優先配当金額 + 早期償還加算金額

上記算式における「日割未払優先配当金額」は、強制償還日の属する事業年度において、強制償還日を基準日として優先配当がなされたと仮定した場合に、9.(5)に従い計算される優先配当金額相当額とする。

また、上記算式における「早期償還加算金額」とは、強制償還が行われる時期に応じ、それぞれ以下の金額とする。

ア 強制償還日が平成21年9月30日以前の日（同日を含む。）である場合

第1回A種優先株式の1株当たりの払込金額に年率2%を乗じて算出した金額（払込期日（同日を含む。）から強制償還日（同日を含む。）までの期間の実日数につき、1年を365日として日割計算により算出される金額をいい、円位未満小数第3位まで算出し、その小数第3位を四捨五入する。）

イ 強制償還日が平成21年10月1日以降（同日を含む。）平成23年9月30日まで（同日を含む。）の期間に属する場合

第1回A種優先株式の1株当たりの払込金額に年率1%を乗じて算出した金額（払込期日（同日を含む。）から強制償還日（同日を含む。）までの期間の実日数につき、1年を365日として日割計算により算出される金額をいい、円位未満小数第3位まで算出し、その小数第3位を四捨五入する。）

ウ 強制償還日が平成23年10月1日以降の日（同日を含む。）である場合

早期償還加算金額は0円とする。

15. 普通株式対価の取得請求権（転換請求権）

(1) 転換請求権の内容

第1回A種優先株主は、平成20年9月26日以降いつでも、当社が第1回A種優先株式を取得すると引換えに、第1回A種優先株式1株につき下記15.(3)に定める算定方法により算出される数の当社の普通株式を交付することを請求（以下「転換請求」という。）することができる。なお、当社がある株主に対して第1回A種優先株式の取得と引換えに交付する当社の普通株式数の算出にあたって、1株未満の端数が生じたときは、会社法第167条第3項に従いこれを取り扱う。

(2) 転換請求の制限

上記15.(1)に拘らず、転換請求の日(以下「転換請求日」という。)において、剰余授權株式数(以下に定義される。)が請求対象普通株式総数(以下に定義される。)を下回る場合には、()第1回A種優先株主が当該転換請求日に転換請求した第1回A種優先株式の数に、()剰余授權株式数を請求対象普通株式総数で除して得られる数を乗じた数(小数第1位まで算出し、その小数第1位を切り下げる。また、0を下回る場合は0とする。)の第1回A種優先株式についてのみ、当該第1回A種優先株主の転換請求に基づく第1回A種優先株式の取得の効力が生じるものとし、取得の効力が生じる第1回A種優先株式以外の転換請求にかかる第1回A種優先株式については、転換請求がされなかったものとみなす。なお、一部取得を行うにあたり、取得する第1回A種優先株式は、抽選、転換請求された第1回A種優先株式の数に応じた比例按分その他の方法により当社の取締役会において決定する。

「剰余授權株式数」とは、()当該転換請求日における定款に定める当社の発行する普通株式の数より、()当該転換請求日における発行済みの普通株式の数、及び 当該転換請求日に発行されている新株予約権が全て行使されたものとみなした場合に発行されるべき普通株式の数の合計数を控除した数をいう。

「請求対象普通株式総数」とは、第1回A種優先株主が当該転換請求日に転換請求した第1回A種優先株式について、転換請求日に償還請求が行われたと仮定した場合における、上記13.(2)に定める第1回A種優先株式の償還価額の総額を、当該転換請求日における下記15.(3)に定める転換価額で除して得られる数(小数第1位まで算出し、その小数第1位を切り上げる。)の総数をいう。

(3) 取得請求により交付する普通株式数の算定方法

第1回A種優先株式の取得と引換えに交付する当社の普通株式の数は、以下の算式に基づき計算されるものとする。

(算式)

第1回A種優先株式の取得と引換えに交付する当社の普通株式の数 = $A \div B$

A = 転換請求にかかる第1回A種優先株式について、第1回A種転換請求日に第1回A種償還請求が行われたと仮定した場合における、上記13.(2)に定める第1回A種優先株式の償還価額の総額

B = 転換価額

当初転換価額

当初の転換価額は、金172円とする。

転換価額の修正

転換価額は、転換請求日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の東京証券取引所第一部における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数を除く。)の92%相当額に修正される。その計算は、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。ただし、上記計算の結果、修正後転換価額が当初転換価額の50%に相当する金額(円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。以下「下限転換価額」という。ただし、下記により調整される。)を下回る場合には下限転換価額をもって修正後転換価額とする。

転換価額の調整

ア 第1回A種優先株式の発行後、次のいずれかに掲げる事由が発生した場合には、次に定める算式(以下「転換価額調整式」という。)により、転換価額を調整する。

(算式)

調整後転換価額 = $A \times (B + C \times D \div E) \div (B + C)$

A = 調整前転換価額(調整後転換価額を適用する日の前日において有効な転換価額をいう。)

B = 既発行普通株式数 - 自己株式数(基準日がない場合は調整後転換価額を適用する日の1ヶ月前の日、基準日がある場合は基準日における、発行済普通株式数から自己株式数を控除した数をいう。)

C = 新発行・処分普通株式数

D = 1株当たりの払込金額・処分価額

E = 1株当たりの時価(調整後転換価額の適用の基準となる日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の東京証券

取引所第一部における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数を除く。)をいい、その計算は、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。なお、上記30取引日の間に、本 に定める転換価額の調整事由が生じた場合には、当該平均値は、本 に準じて調整される。)

- () 転換価額調整式に使用する時価を下回る払込金額をもって普通株式を発行し又は当社が保有する普通株式を処分する場合(無償割当ての場合を含む。ただし、下記()記載の証券(権利)の取得と引換え若しくは当該証券(権利)の取得と引換えに交付される新株予約権の行使による交付、又は下記()記載の新株予約権の行使若しくは当該新株予約権の行使により交付される株式の取得と引換えによる交付の場合を除く。)
- 調整後転換価額は、払込みがなされた日(基準日を定めずに無償割当てを行う場合は、その効力発生日)の翌日以降、募集又は無償割当てのための基準日がある場合は、その日の翌日以降、これを適用する。無償割当ての場合、転換価額調整式Dにおける「1株当たりの払込金額・処分価額」は、0円とする。
- () 株式の分割により普通株式を発行する場合
- 調整後転換価額は、株式の分割にかかる基準日の翌日以降これを適用する。本()において、転換価額調整式Cにおける「新発行・処分普通株式数」とは、株式の分割により増加する普通株式の数を意味するものとし、転換価額調整式Dにおける「1株当たりの払込金額・処分価額」は、0円とし、転換価額調整式Bにおける「既発行普通株式数 - 自己株式数」は「既発行普通株式数」と読み替える。
- () 転換価額調整式に使用する時価を下回る価額をもって当社の普通株式又は当社の普通株式の交付を請求することができる新株予約権を交付することと引換えに取得される証券(権利)又は取得させることができる証券(権利)を発行する場合(無償割当ての場合を含む。)
- 調整後転換価額は、その払込みがなされた日(基準日を定めずに無償割当てを行う場合は、その効力発生日)に、又は募集若しくは無償割当てのための基準日がある場合にはその日の最終に、発行される証券(権利)の全額が、最初に取得される又は取得させることができる取得価額で取得されたものとみなして(当社の普通株式の交付を請求することができる新株予約権を交付することと引換えに取得される証券(権利)又は取得させることができる証券(権利)の場合、更に当該新株予約権の全てがその日に有効な行使価額で行使されたものとみなして)、その払込みがなされた日(基準日を定めずに無償割当てを行う場合は、その効力発生日)に、又は募集若しくは無償割当てのための基準日がある場合にはその日の翌日以降、これを適用する。ただし、当該取得又は行使価額がその払込みがなされた日(基準日を定めずに無償割当てを行う場合は、その効力発生日)、又は募集若しくは無償割当てのための基準日において確定しない場合、調整後転換価額は、当該取得又は行使価額が決定される日(本()において、以下「価額決定日」という。)に発行される証券(権利)の全額が当該取得価額で取得されたものとみなして(当社の普通株式の交付を請求することができる新株予約権を交付することと引換えに取得される証券(権利)又は取得させることができる証券(権利)の場合、更に当該新株予約権の全てが当該行使価額で行使されたものとみなして)、価額決定日の翌日以降これを適用する。本()において「価額」とは、発行される証券(権利)の払込金額(新株予約権を交付することと引換えに取得される証券(権利)又は取得させることができる証券(権利)の場合、当該証券(権利)の払込金額と新株予約権の行使に際して出資される財産の価額との合計額)から取得又は行使に際して当該証券(権利)又は新株予約権の保有者に交付される普通株式以外の財産を控除した金額を、交付される普通株式数で除した金額をいう。
- () 転換価額調整式に使用する時価を下回る価額をもって当社の普通株式、又は当社の普通株式を交付することと引換えに取得される株式若しくは取得させることができる株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。以下同じ。)を発行する場合(無償割当ての場合を含む。)
- 調整後転換価額は、かかる新株予約権の割当日(基準日を定めずに無償割当てを行う場合は、その効力発生日)に、又は募集若しくは無償割当てのための基準日がある場合はその日に、発行される新株予約権の全てが、その日に有効な転換価額で行使されたものとみなして(当社の普通株式を交付することと引換えに取得される株式若しくは取得させることができる株式の交付を請求することができる新株予約権の場合、更に当該株式の全てがその日に有効な取得価額で取得されたものとみなして)、割当日(基準日を定めずに無償割当てを行う場合は、その効力発生日)の翌日以降、又は募集若しくは無償割当てのための基準日がある場合はその日の翌日以降、これを適用する。ただし、当該行使又は行使価額がその割当日(基準日を定めずに無償割当てを行う場合は、その効力発生日)、又は募集若しくは無償割当てのための基準日において確定しない場合、調整後転換価額は、当該行使又は行使価額が決定される日(本()において、以下「価額決定日」という。)に発行される全ての新株予約権が当該行使価額で行使されたものとみなして(当社の普通株式の交付を請求することと引換えに取得される株式又は取得させることができる株式の交付を請求することができる新株予約権の場合、更に当該株式の全てがその日に有効な取得価額で取得されたものとみなして)、価額決定日の翌日以降これを適用する。本()において「価額」とは、発行される新株予約権の払込金額と新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額からその行使又は取得に際して当該新株予約権又は株式の保有者に交付される普通株式以外の財産を控除した金額を、交付される普通株式数で除した金額をいう。

() 株式の併合により普通株式数を変更する場合

調整後転換価額は、株式の併合の効力発生日以降これを適用する。本()において、転換価額調整式Cにおける「新発行・処分普通株式数」とは、株式の併合により減少する普通株式数を負の値で表示したものとし、転換価額調整式Dにおける「1株当たりの払込金額・処分価額」は、0円とする。

イ 上記アにおいて、当該各行為にかかる基準日が定められ、かつ当該各行為が当該基準日以降に開催される当会社の株主総会における一定の事項(ただし、上記ア()については、剰余金の額を減少して、資本金又は資本準備金の額を増加することを含む。)に関する承認決議を条件としている場合、調整後転換価額は、当該承認決議をした株主総会の終結の日の翌日以降にこれを適用する。

ウ 上記アに掲げる場合のほか、以下のいずれかに該当する場合には、当会社取締役会が判断する合理的な転換価額に変更される。

合併、資本金の額の減少、株式交換、株式移転又は会社分割のために転換価額の調整を必要とするとき、その他当会社の発行済普通株式の変更又は変更の可能性を生じる事由の発生によって転換価額の調整を必要とするとき。

転換価額の調整事由が2つ以上相接して発生し、一方の事由に基づく調整後転換価額の算出に関して使用するべき1株当たり時価が他方の事由によって影響されているとき。

エ 転換価額の調整のために計算を行う場合には、円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。

オ 転換価額調整式により算出される調整後転換価額と調整前転換価額の差額が1円未満の場合は、転換価額の調整は行わない。ただし、その後転換価額の調整を必要とする事由が発生し、転換価額を算出する場合には、転換価額調整式中の調整前転換価額に代えて調整前転換価額からこの差額を差し引いた額を使用する。

(4) 取得請求受付場所

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社 本店

(5) 取得請求の効力発生

取得請求の効力は、取得請求書及び第1回A種優先株式の株券が取得請求受付場所に到着したときに発生する。ただし、第1回A種優先株式の株券が発行されていないときは、株券の提出を要しない。

16. 株式の併合または分割

法令に別段の定めがある場合を除き、第1回A種優先株式について株式の併合又は分割は行わない。第1回A種優先株主又は第1回A種優先登録株式質権者には、募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利を与えず、株式又は新株予約権の無償割当てを行わない。

17. 会社法第322条第2項に規定する定款の定めの有無

会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

行使はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	-	83,098	-	11,183	-	1,458

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	第1回A種優先株式 3,500,000	-	「1(1) 発行済株式」 の記載を参照
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 83,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 79,099,000	79,099	-
単元未満株式	普通株式 416,912	-	-
発行済株式総数	83,098,912	-	-
総株主の議決権	-	79,099	-

(注) 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株（議決権の数1個）含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 （%）
常磐興産株式会社	福島県いわき市常磐 藤原町蕨平50番地	83,000	-	83,000	0.10
計	-	83,000	-	83,000	0.10

(注) 上記のほか株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に所有していない株式が1,000株（議決権の数1個）あります。

なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」の欄の普通株式に含めております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,634	5,049
受取手形及び売掛金	1,862	1,650
たな卸資産	313	880
その他	282	378
貸倒引当金	3	3
流動資産合計	6,089	7,954
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,500	11,667
土地	14,683	14,683
その他(純額)	3,808	4,418
有形固定資産合計	30,992	30,769
無形固定資産		
	146	138
投資その他の資産		
投資有価証券	3,999	3,894
投資不動産(純額)	10,190	10,189
その他	2,125	2,124
貸倒引当金	1,588	1,588
投資その他の資産合計	14,727	14,619
固定資産合計	45,866	45,528
繰延資産	58	53
資産合計	52,015	53,536

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,245	1,225
短期借入金	9,880	12,449
1年内償還予定の社債	794	794
未払法人税等	26	35
賞与引当金	130	214
事業整理損失引当金	377	375
災害損失引当金	61	4,163
設備関係支払手形	78	778
その他	2,119	1,696
流動負債合計	14,713	21,733
固定負債		
社債	1,670	1,670
長期借入金	14,200	14,592
繰延税金負債	3,730	3,738
退職給付引当金	42	44
環境対策引当金	99	99
資産除去債務	386	388
その他	2,053	2,027
固定負債合計	22,182	22,560
負債合計	36,896	44,293
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,183	11,183
資本剰余金	1,475	1,475
利益剰余金	2,609	3,335
自己株式	11	11
株主資本合計	15,257	9,311
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	150	81
土地再評価差額金	2	2
その他の包括利益累計額合計	153	84
少数株主持分	15	15
純資産合計	15,119	9,242
負債純資産合計	52,015	53,536

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	8,672	3,354
売上原価	8,073	3,252
売上総利益	598	102
販売費及び一般管理費	702	374
営業損失()	103	272
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	56	50
負ののれん償却額	2	-
持分法による投資利益	24	-
不動産賃貸料	37	31
その他	9	9
営業外収益合計	130	92
営業外費用		
支払利息	151	145
持分法による投資損失	-	21
不動産賃貸費用	23	16
その他	42	16
営業外費用合計	216	199
経常損失()	189	380
特別利益		
固定資産売却益	3	-
貸倒引当金戻入額	1	-
事業整理損失引当金戻入額	3	-
施設提供料	-	56
その他	-	6
特別利益合計	7	63
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	9	0
投資有価証券評価損	51	148
災害による損失	-	5,466
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	126	-
その他	-	0
特別損失合計	187	5,615
税金等調整前四半期純損失()	369	5,932
法人税、住民税及び事業税	8	3
法人税等調整額	4	9
法人税等合計	12	12
少数株主損益調整前四半期純損失()	381	5,945
少数株主利益	0	0
四半期純損失()	381	5,945

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	381	5,945
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	211	69
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	211	69
四半期包括利益	593	5,876
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	593	5,876
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

（四半期連結損益計算書関係）

前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

観光事業においては、他の四半期連結会計期間に比べ、第2四半期連結会計期間の利用者数が多く、売上高も多くなる傾向があります。

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 施設提供料は、福島県からの要請を受け避難された方々に施設を提供したものであります。
2. 災害による損失は、平成23年4月11日に発生したいわき市を震源とする地震に伴うものであり、主な内容は次のとおりであります。

	当第1四半期連結会計期間 （平成23年6月30日）
	（百万円）
原状回復費用	4,173
固定資産除却損	656
営業休止期間中の固定費	633

なお、原状回復費用のうち災害損失引当金繰入額は、4,139百万円であります。

また、固定資産除却損、原状回復費用については現時点の見込額であり、復旧工事の進捗により変動する可能性があります。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）
減価償却費	297百万円	272百万円
		災害による損失の減価償却費（205百万円）を含めて表示しております。

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	159	2.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金
	第1回 A種優先株式	35	10.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	観光事業	卸売業	製造関連 事業	運輸業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,295	5,425	466	484	8,672	-	8,672
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	104	-	23	128	128	-
計	2,295	5,530	466	508	8,800	128	8,672
セグメント利益 又は損失()	30	51	41	10	73	176	103

(注) 1. セグメント利益の調整額 176百万円には、セグメント間取引消去 0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 175百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	観光事業	卸売業	製造関連 事業	運輸業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	116	2,342	513	382	3,354	-	3,354
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	76	-	11	88	88	-
計	116	2,419	513	393	3,442	88	3,354
セグメント利益 又は損失()	176	21	55	31	130	141	272

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 141百万円には、セグメント間取引消去 2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 139百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	4円91銭	74円89銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	381	5,945
普通株主に帰属しない金額(百万円)	8	8
(うち優先配当額)(百万円)	(8)	(8)
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	390	5,954
普通株式の期中平均株式数(千株)	79,561	79,515
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

当社及び連結子会社である常磐興産ピーシー(株)は、公正取引委員会より橋梁工事につき独占禁止法に違反する行為が行われていたとして、当社は平成17年4月課徴金(100百万円)納付命令を、常磐興産ピーシー(株)は平成16年10月排除勧告を受けました。その後審判手続を重ねてまいりましたが、平成22年9月21日に当社には当該処分と同額の課徴金納付を命ずる審決が、常磐興産ピーシー(株)には違法行為を認める審決がそれぞれ出されました。なお、当社PC事業部門を常磐興産ピーシー(株)に会社分割する際に、潜在的債務を含め一切の債権債務関係を承継することとしております。

この審決を受け、検討した結果、事実関係を含めて公正取引委員会の判断と当社及び常磐興産ピーシー(株)の見解の間には相違点はあるものの、諸事情を総合的に勘案し審決取消訴訟を提起しないとの結論に至り、当社は平成22年11月22日に課徴金を納付いたしました。

常磐興産ピーシー(株)につきましては、平成23年4月21日付で課徴金(31百万円)納付命令案が出され、意見書提出を行い、平成23年6月15日付で課徴金納付命令が出されました。これを受け諸事情を総合的に勘案し、当該命令を受け入れることといたしました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月11日

常磐興産株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内田 英仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 出口 賢二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている常磐興産株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、常磐興産株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。